

2007 年度

<p>科目名</p> <p>哲学 B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文 1 回生 文学部英米 1 回生 文学部文財 1 回生 人間人社 1 回生</p>	<p>担当者</p> <p>池田 清</p>
<p>授業テーマ</p> <p>写真 映画 トラウマ 欲望 そして無意識</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>街にあふれるポスターを見たり、ドラマや映画を観るとき、何が起きているのでしょうか。例えば、新しい商品を欲しくなったり、登場人物に同情して泣いたり、怒ったりします。つまり、メーカーが買って欲しいものや、監督が泣いたり怒ったりして欲しいことに、われわれは反応してしまいます。私の「～したい」という欲望は、私以外の他者の欲望によって自由に操られているということです。私の欲望と他者の欲望はどういう関係にあるのか、これを知ることが授業の概要であり、目標です。</p>		
<p>評価方法</p> <p>出席、本試験から総合的に評価します。</p>		
<p>テキスト</p> <p>テキストは使用しません。適宜資料を配布しますが、講義ノート中心です。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>授業中、その都度指示します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>【哲学 A】</p> <p>I 見ることの複雑性 ― 何を見ているのか、誰が見ているのか</p> <p>II 映像を見る／見せられる私 ― 映像を見るとはどういうことなのか</p> <p>III 私の居場所 ― 私はどこにいるのか</p> <p>【哲学 B】</p> <p>IV 他者の居場所 ― 他者はどこにいるのか</p> <p>V 夢を見る／見せられる私 ― 私が出会うのは、私の分身だけなのか</p> <p>VI 映像と言語 ― 他者＝友人と話しているとき、何が起きているのか</p> <p>VII 言語の介入 ― 言葉を話すとはどういうことなのか</p> <p>◎ 哲学は、訳の分からない難しい＝理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やろ?」、「何でなんやろ?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一歩足を踏み入れているのです。</p> <p>われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。何で、ドラマを観て、泣いてしまうのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしながら、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。</p> <p>その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。</p> <p>哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。</p>		